

# 社会資本総合整備計画

千提寺地区都市再生整備計画(第3回変更)

平成27年11月2日

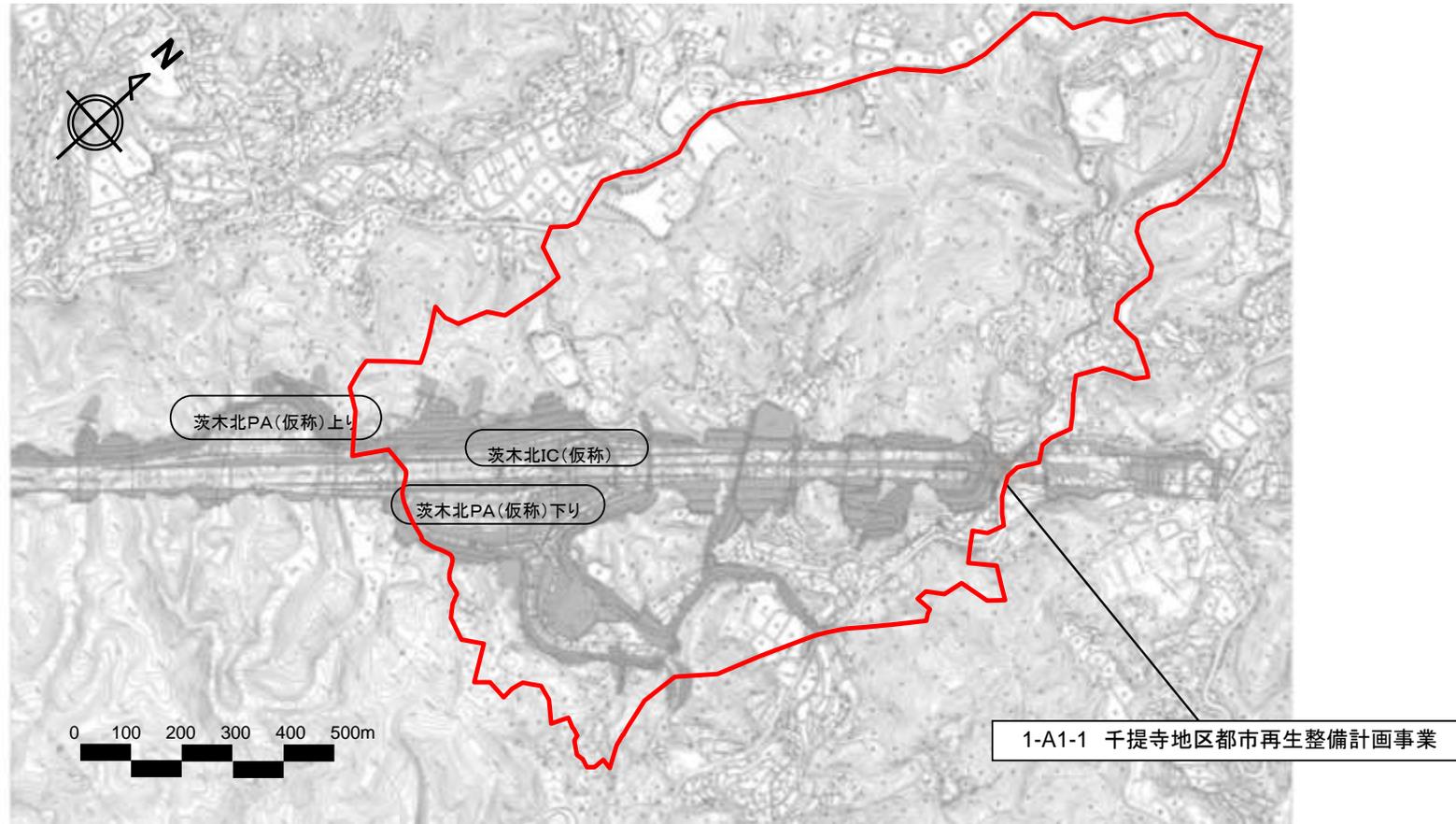
大阪府茨木市



(参考様式3)

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	千提寺地区都市再生整備計画		
計画の期間	平成23年度 ~ 平成27年度 (5年間)	交付対象	大阪府茨木市



都市再生整備計画(第3回変更)

千提寺地区

大阪府 茨木市

平成27年11月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大阪府	市町村名	いばらき 茨木市	地区名	せんだいじちく 千提寺地区	面積	144 ha
計画期間	平成	23	年度	～	平成	27	年度
交付期間	平成	23	年度	～	平成	27	年度

### 目標

豊かな自然環境と貴重な歴史・文化資源を活かしたにぎわいある癒しの空間の創出  
 目標1:都市部の住民と地域住民による交流の促進  
 目標2:将来の新名神高速道路の整備インパクトを活用したまちづくりの素地づくり

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

- ・千提寺地区は茨木市中心部から約10km離れた北部に位置し、土地利用状況は山林や農地が中心であり、ほぼ全域が市街化調整区域である。
- ・本地区の人口は平成22年3月末現在で115人(住民基本台帳人口)であり、徐々に人口減少が見られる。また、高齢化率は36%であり、市内平均(19%)よりも高い地区である。
- ・本地区は古くは隠れキリシタンとしての信仰があった地区で、キリシタン遺物史料館においてはその遺物が紹介され、年間6,000人前後の観光客が訪れている。また、周辺には忍頂寺スポーツ公園や里山センターなどスポーツ・レクリエーションや里山体験などの活動が可能な施設がある。
- ・本地区は緑豊かな自然環境を有し、集落周辺では里山の原風景が見られる。また、本地区周辺の山間部は大阪府立北摂自然公園に指定されており、複数の自然歩道が設置されている。
- ・現在、西日本高速道路(株)により新名神高速道路の建設が進められており、本地区は高速道路の本線により分断され、地区内にはインターチェンジ(茨木北IC(仮称))、パーキングエリアが設置される予定である。
- ・千提寺地区においては新名神高速道路の建設を契機とし、平成15年度以降まちづくりに関するワークショップやまちづくり委員会が開催され、高速道路の建設を踏まえたまちづくりについて様々な議論がなされ、地域住民と行政により平成22年4月に「千提寺地区まちづくり計画」を策定した。

#### 課題

- ・新名神高速道路の建設による地区周辺の生活環境や営農環境への影響をはじめ、更なる人口減少や高齢化の進行による地区の活力の低下が懸念され、茨木市の歴史・文化を継承する地区として地域資源を活用した持続可能な地域づくりが求められている。
- ・将来的には新名神高速道路の供用によるインパクトに対応した交通基盤の整備が不可欠であり、地域づくりを行ううえでは、高速道路の建設中においてもこのインパクトを踏まえつつ、まちづくりに対する住民意識の醸成や体制づくりなど、まちづくりに向けた素地づくりが必要である。

#### 将来ビジョン(中長期)

- ・第4次茨木総合計画(平成17年3月策定)において、自然環境に恵まれた北部地域はレクリエーション面からも重要な地域であり、高速自動車道路網との接続を活かした地域づくりについて検討を進め、都市と農村の交流を基本とし、案内標識や説明版の整備や観光レクリエーションの拠点のネットワークとなる自然歩道の整備充実を進めることとしている。
- ・都市計画マスタープラン(平成19年6月改定)においては、本地区を含む北部地域は農業生産、レクリエーション機能等の面からも重要な地域であり、彩都、安威川ダム、新名神高速道路の建設などが予定されている地区であることから、生活環境の向上に努めるとともに、農林業の振興や里山保全などの自然環境を守り育てる取り組み、レクリエーション空間の整備などに努め、広域的な交流が活発に行われる地域を目指すこととしている。
- ・地域住民と行政で策定した千提寺地区まちづくり計画(平成22年4月策定)において、地域活性化に向けたまちづくりの取り組みにあたっては、地域住民と行政による創意工夫と連携により、できることから検討し、実践することとしている。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1. 来訪者の満足度	%	主要施設(忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、里山センター)への来訪者アンケートによる地区滞在に対する満足度	地区内への来訪者が主要施設を訪れるうえで、地区の魅力を実感できる癒し空間づくりを行う。	14.5	平成22年度	20	平成27年度
2. 既存3施設への来訪者数	人/年	主要施設(忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、里山センター)への来訪者数	主要施設への来訪者の維持・増加を図りつつ、癒し空間の整備と既存施設との連携により都市部の住民との交流を促進する。	38,709	平成21年度	42,000	平成27年度
3. まちづくり活動への参加者	人/年	地区で開催するまちづくり活動(まちづくり委員会、まちづくりイベント、農産物販売等)への参加者延べ人数	まちづくり委員会の開催をはじめ、交流拠点を活用したイベントや農産物販売など地域住民による取り組みにより、まちづくりへの意識の醸成を図る。	148	平成21年度	160	平成27年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「都市部の住民と地域住民による交流の促進」に対応するため、キリシタン遺物史料館の機能を充実させ、共有山において交流拠点の基盤整備を行うとともに、主要施設(忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、共有山の交流拠点)間の回遊が可能な自然遊歩道ネットワークの形成を図る。</li> </ul>	市道千提寺9号線(基幹事業/道路) 広場、情報板(基幹事業/地域生活基盤施設) 回遊路・遊歩道(基幹事業/高質空間形成施設) 展望台整備(提案事業/地域創造支援事業) キリシタン遺物史料館機能充実(提案事業/地域創造支援事業) 交流拠点の活用検討(提案事業/事業活用調査)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来の新名神高速道路の整備インパクトを活用したまちづくりの素地づくり」に対応するため、共有山における交流拠点の基盤整備と並行して、交流拠点の具体的な活用方法について地域住民とともに検討し、交流人口の増加を図り、その事業効果について検証を行う。</li> </ul>	広場、情報板(基幹事業/地域生活基盤施設) キリシタン遺物史料館機能充実(提案事業/地域創造支援事業) 交流拠点の活用検討(提案事業/事業活用調査) 事業効果分析(提案事業/事業活用調査)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業終了後においても、新名神高速道路の建設・供用後の整備インパクトを活用し、更なるまちづくりを行う。</li> <li>・共有山における交流拠点の活用手法の検討結果を踏まえ、地域資源を活かした魅力ある空間づくりを行う。</li> <li>・交流拠点における文化財調査(試掘)により複数の遺構が出土したことから、広場を将来のまちづくりに活用していく。</li> </ul>	





# 千提寺地区(大阪府茨木市) 整備方針概要図

目標	豊かな自然環境と貴重な歴史・文化資源を活かしたにぎわいある癒しの空間の創出 ①都市部の住民と地域住民による交流の促進 ②将来の新名神高速道路の整備インパクトを活用したまちづくりの素地づくり	代表的な指標	来訪者の満足度 ( % )	14.5	( 22年度 )	→	20	(27年度)
			既存3施設への来訪者 (人/年)	38,709	( 21年度 )	→	42,000	(27年度)
			まちづくり活動への参加者 (人/年)	148	( 21年度 )	→	160	(27年度)

